

教科名		【教科:道徳】	教科書調査報告(教科書調査委員会)
発行者名		東京書籍	教育出版
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の分かりづらい言葉には注釈による説明があったり、生徒の考えをメモする「つぶやき」という欄も設けてあったりと、内容の理解を促す配慮がある。 ・イラストや補足資料である写真も豊富で、かつ短く端的な文章であるため、生徒にとって理解しやすい内容である。 ・読み物資料には、登場人物の整理があったり、題名の下に関連するマンガのコマが挿入されていることで、生徒が見通しをもって文章を読んでいくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教材に、「導入」と「学びの道しるべ」を設定しており、生徒にとって学びの流れが分かりやすい工夫がある。内容が把握しやすい文章量の少ない教材や見て分かる教材などもある。 ・行数を示す数字の間に点(・)を打つことで、どの部分を参考にして考えたかを述べやすい。 ・中学生が主人公であり、かつ人物関係が複雑ではない資料が多いため、文章内容を十分に理解した上で道徳的な課題について考えていくことができる。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう」で発問が1つだけ提示されているものが多く、焦点化されている。また、より主体的に自分事として考えられるよう「自分を見つめよう」として発問がもう1つ設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問の内容が、中心発問に合わせて順を追って題材について考えられるようになっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命尊重」と「いじめ問題」がユニット化され、3つの教材を通して1つのテーマを学習するよう構成されている。また、「生命尊重」に関わる教材は各学年で複数掲載され、時代に即応しつつ重点化がなされている。 ・オリンピック・パラリンピック教育として、萩野公介選手や瀬戸大也選手、野村萬斎さんなどを取り上げた題材が掲載されており、時代に即応した教材となっている。 ・新聞教材やマンガ教材など、資料が精選され、様々な視点から、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめや差別のない社会について深く考える教材」が体系的に配置されている。各学年、コラムを合わせると4つ以上に複数の資料が掲載されており、時代に即応した重点化がなされている。 ・「先人の生き方から学ぶ」では、後藤新平さんや杉原千畝さん、「同時代を生きている人々から学ぶ」では竹下佳江さんや藤井聡太さんらを取り上げた題材が掲載されており、資料が精選され、時代に即応した内容となっている。 ・「生命倫理」「情報モラル」「社会参画」「安全・防災」などこれからの社会を生きる上で考えるべき、現代的な課題が積極的に取り上げられている。SNSや裁判員制度、防災に関するコラムなど、精選された資料が掲載されている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年にESDの視点である「郷土のことを考える」「我が国のことを考える」「国際理解、国際貢献」「自然を守る」などをテーマとした題材が取り入れられている。 ・全学年の付録に「郷土のことを考える」項目で、各都道府県の世界遺産や重要文化財、文化遺産などが記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの視点である「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」や「国際理解、国際貢献」についての題材が多く取り入れられている。 ・学習に役立つ情報として教科書に載せられているインターネットページの中に、ESDの視点である「核問題」「人権」「伝統」など様々なテーマの動画が載せられている。
B 使用 上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題が多く取り上げられおり、主体的に学習できる構成となっている。 ・自分の考えをまとめる際に役立つ巻末付録、考え議論するためのツール(心情円盤)や他教科との関連、動画や関連ウェブページのリンクがあり、生徒の興味・関心を高めつつ主体的に学びに向かう姿勢の育成につながる便宜が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材への意識付けにつなげる導入の問いが用意されている。 ・巻末には授業ごとや学期ごとに学びの振り返りを記入する欄があり、道徳的価値について、家庭との連携を図る工夫がされている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「B主として人とのかかわりに関すること」の「思いやり、感謝」、「友情、信頼」、「相互理解、寛容」、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」についての教材が重点化されており、いじめ問題への対応に重点を置く多摩市の実態に即した教材が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「B主として人との関わりに関すること」の「思いやり、感謝」、「友情、信頼」、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の「社会参画、公共の精神」、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」、「国際理解、国際貢献」、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」が重点化されており、いじめ問題への対応やESDの推進に重点を置く多摩市の実態に即した教材が含まれている。

教科名		【教科:道徳】	教科書調査報告(教科書調査委員会)
発行者名		光村図書	日本文教出版
調査の観点			
A 内容 について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「見方を変えて」「つなげよう」「深めたいむ」など、様々な視点での発問が用意されていて、教材への理解を深められる工夫がある。 ・文章内容の理解を促すための写真や図表が豊富である。特に生徒にイメージしにくい日本の伝統・文化に関する写真に優れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の分かりづらい言葉の注釈やイラストが多く入り、生徒が題材について考えやすくなる配慮がなされている。 ・地図や写真が多く使われているので文章の情景がイメージしやすい。 ・文章の題名の下に登場人物の名前がイラストとともに描かれており、人物関係を整理しやすい。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう」で課題解決のためにどのようなことを考えていけばよいのか、そのきっかけが提示されている。 ・「見方を変えて」では、「考えよう」とは違った面でその教材を考えることができ、生徒が様々な考えをもちやすい工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えてみよう」の発問は登場人物の気持ちになって考えやすいものになっている。 ・「自分に+1」では、「考えてみよう」の発問を自分自身のこと置き換えて考えていく工夫がされている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ問題」に関する教材は、各学年でユニット化して掲載されている。発達段階に合わせた内容で、教材が精選され、それぞれの学年の前半に配置されている。 ・情報モラルについて、自分の経験に照らして考えられるよう資料が精選されている。 ・現代的な課題について様々な教材で取り扱われている。特に「環境」「国際理解」「共生」についてより重視されていて、それぞれにコラムが用意されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」について直接的・間接的に扱う教材が各学年に複数掲載されている。様々な資料で集中的に学ぶことで、より多面的・多角的に考えられるよう工夫がされている。 ・山中伸弥さんや国枝慎吾選手など、生き方について考えを深められる様々な人物が取り上げられており、時代に即応した内容になっている。 ・「よりよい社会と私たち」のユニットでは、これからの社会を生きていく上で重要な人権、社会参画や勤労に関わる内容が複数配置され、多面的・多角的に考えられるように工夫されている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、読み物資料の後に「広げよう」というより知識や考えを広げるためのページがあり、全てがESDに含まれる「人と人との関係づくり」や「共生」「環境」「国際理解」の内容になっていて、よりESDの視点で学びを深めることができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの視点である、「自然を守りながらともに生き続けるためにどうすればいいか」を考える題材や、「世界の平和を自分たちの手で実現するために何を考えていけばいいか」を考える題材、「伝統や文化を生かし続けるために大切にすべきこと」を考える題材が、3年間を通して学べるように配置されている。
B 使用 上の 便宜 について	(1) 児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末には、一定期間ごとに学びを振り返ることができる記録表があり、生徒が自分の学びを振り返りながら主体的に学ぶ意欲を高められる工夫がある。 ・文章だけではなく、現実起こり得る場面の想定が多く書かれており、生徒が考えをもちやすい構成になるよう便宜が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付属の「道徳ノート」で各時間に自分の考えをまとめ、友達の考えを書く欄があるなど、「主体的、対話的で深い学び」を促す構成となっている。 ・既習の内容項目を振り返ったり、より深く自分の意見や考えを見つめ直したりできるつくりになっており、生徒が主体的に学習に向かえるような便宜が図られている。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「A主として自分自身に関すること」の「自主、自律、自由と責任」、「B主として人との関わりに関すること」の「相互理解、寛容」、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の「遵法精神、公徳心」、「公正、公平、社会正義」、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」が重点化され、いじめ問題への対応やESDの推進に重点を置く多摩市の実態に即した教材が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「C主として集団や社会との関わりに関すること」の「遵法精神、公徳心」「公正、公平、社会正義」「社会参画、公共の精神」、「勤労」、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」が重点化され、いじめ問題への対応やESDの推進に重点を置く多摩市の実態に即した教材が含まれている。

教科名		【教科:道徳】	教科書調査報告(教科書調査委員会)
発行者名		学研教育みらい	廣済堂あかつき
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の分かりづらい言葉には注釈により生徒が題材に取り組みやすくなる配慮がなされている。 ・実際のマンガを題材にしているものがあり、生徒が身近なことから考えられる工夫がある。 ・文章量が短く、考えるべき道徳的価値に迫りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりづらい言葉には注釈があり、生徒の理解を促す配慮がある。 ・文章末尾にある「学習の手がかり」によって、どの文章を基に考えていけばよいのかわかる。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめやすい発問の工夫がされている。 ・「クローズアップ+プラス」では、さらに生徒が主体的に考えていける工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをする際の中心的なテーマが記されているので、焦点を絞って話し合いができる。 ・補助的な発問を設け、中心発問に対する自分の考えを深めるよう工夫されている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命尊重」に重点を置き、関連する教材が各学年で複数掲載されている。他にも「生命尊重」に関連付けて考えられる教材が複数掲載されており、命について多面的に考えられる工夫がされている。 ・山中伸弥さんや張本智和選手、高梨沙良選手など、今を生きる様々な分野で活躍する人物が掲載され、生徒が関心をもてるよう精選された教材となっている。 ・現代的な課題に関する教材は、発達の段階に合わせて各学年で掲載されている。特に「情報モラル」については全学年で掲載され、防災、福祉についても精選された教材が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主自律」「生命の尊さ」「思いやり」「感謝」を重点項目として、全ての学年で複数掲載されている。特に「いじめ問題」「情報モラル」に関する教材は、発達段階に応じて教材が精選されていて、様々な角度から考えられるようになっている。 ・松井秀喜さんや三浦知良選手など様々なジャンルの著名人やスポーツ選手の題材が多く掲載され、生徒がこれらの人物を身近に感じられるよう精選されている。 ・現代的な課題に関する教材は、「防災教育」「法教育」「社会参画に関する教育」などに関連して、各学年で多く掲載されており、時代に即応した内容となっている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの視点である「地球と地域の未来のために」や、「誰もが暮らしやすい社会」というテーマの題材が多数ある。 ・「地球と地域の未来のために」については、複数の教材で連続して学び、テーマについて考えを深められるよう、ユニット学習が取り入れられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの視点である「自然愛護」や「国際理解、国際貢献」「伝統と文化の尊重」などの内容を扱った題材が全学年にある。 ・教科書の最後の補助資料の中の最後に、第1学年「よりよい未来をつくるために」、第2学年「持続可能な社会を考える」、第3学年「持続可能な社会の実現を目指して」というESDの視点を踏まえたページがある。
B 使用 上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の下部には、生徒の考えや意見を記入できるメモ欄が用意され、中心となる発問等において生徒が「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた学習が進められるような便宜が図られている。 ・巻末には学期ごとの振り返りを記入するワークシートがあり、深い学びを促す工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付属の「中学生の道徳ノート」は、関連教材が示され、ポートフォリオ的なワークブックとして活用できる。既習の内容項目を振り返ったり、より深く自分の意見や考えを見つめ直したりできるつくりになっているため、生徒が主体的に学習に向かう姿勢を育むような便宜が図られている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「A主として自分自身に関すること」の「自主、自律、自由と責任」、「節度、節制」、「B主として人との関わりに関すること」の「思いやり、感謝」、「友情、信頼」、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の「遵法精神、公德心」、「国際理解、国際貢献」、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」が重点化され、いじめ問題への対応やESDの推進に重点を置く多摩市の実態に即した教材が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「A主として自分自身に関すること」の「自主、自律、自由と責任」、「希望と勇気、克己と強い意志」、「B主として人との関わりに関すること」の「思いやり、感謝」、「友情、信頼」、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の「遵法精神、公德心」、「公正、公平、社会正義」、「家族愛、家庭生活の充実」、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」が重点化され、いじめ問題への対応やESDの推進に重点を置く多摩市の実態に即した教材が含まれている。

教科名		【教科:道徳】	教科書調査報告(教科書調査委員会)
発行者名		日本教科書	
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の分かりづらい言葉や表現には注釈が入っており、絵やイラストを用いた生徒の理解を促す配慮がある。 ・SNSに関する文章では、スマートフォンの画面のイラストを用いることで、人物関係や発言の内容が理解しやすくなっている。 	
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・題材について様々な角度から考えられるよう、発問が多く設定されている。 	
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ問題」に関して「生命尊重」と関連して考えを深められる教材が各学年で複数掲載されている。 ・「情報モラル」について自分事として考えられる教材が精選され、全ての学年で掲載されている。 ・新しい時代に合わせて開発されたオリジナルの教材が各学年に掲載されていて、時代に即応した内容となっている。 	
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの視点である「自然環境」や「地域の伝統や文化財」などの内容を扱った題材が全学年にある。 ・ESDの視点である「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」や「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」の内容を扱った題材が多い。 	
B 使用 上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「書いてみよう」というコラムには、生徒が直接自分の考えや意見を教科書に書き込むことができ、主体的に学習を進めやすい。 ・自身の心の成長を振り返るワークシートが最終ページに掲載されるなどの便宜が図られている。 	
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「B主として人との関わりに関すること」の「友情、信頼」、「相互理解、寛容」、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の「遵法精神、公德心」、「公正、公平、社会正義」、「社会参画、公共の精神」、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」が重点化されており、いじめ問題への対応を重視する多摩市の実態に即した教材が含まれている。 	